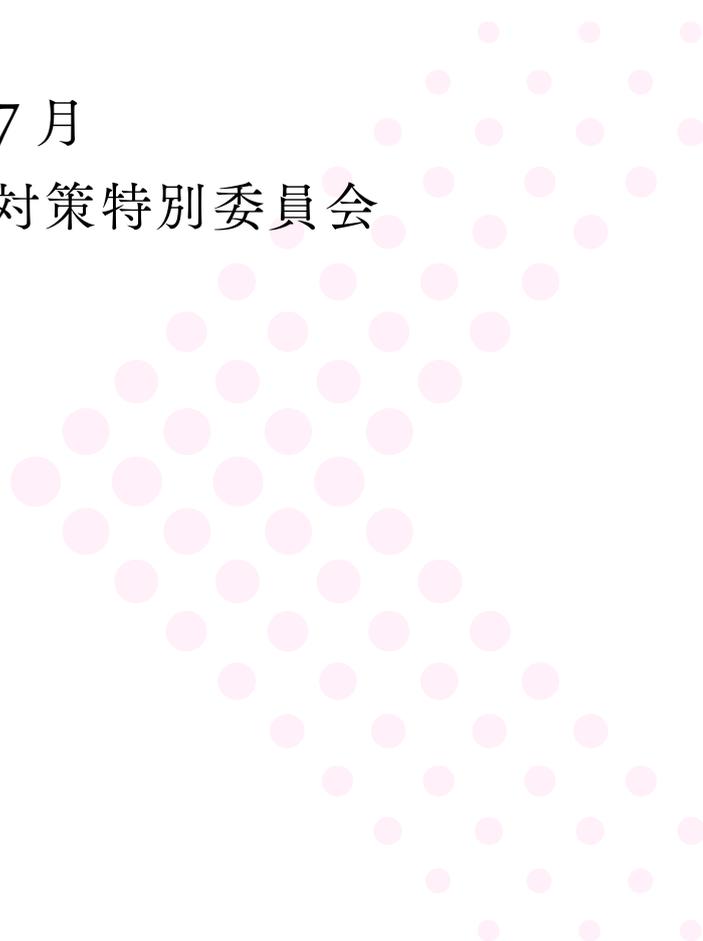


「江津の地域医療を守る」 意見交換会結果報告書 概要版

令和7年7月

江津市議会 地域医療対策特別委員会



01 目的・めざす姿

地域医療はみんなの財産

みんなで守り、みんなで活かすために挑戦しよう！

江津市議会地域医療対策特別委員会は、目的を「住民がいつでもどこでも安心して医療サービスを受けられるために、医療従事者不足の解消など、持続的な医療提供体制の整備・充実を図る」とし、そのために「江津市全体で地域医療を守る体制の構築」に取り組んでいます。

令和7年5月、全コミュニティ交流センターで住民の皆さまへ地域医療について現状をお伝えし、「(仮称)江津の地域医療を守る市民の会」設立を提案の上、市全体で地域医療を守る体制の構築について意見交換をしました。今回の報告書は、意見交換の結果を共有し、関係するすべての皆さまが、江津の地域医療を守る体制構築に向けて、今後さらに取り組みが進められるようまとめました。



背景

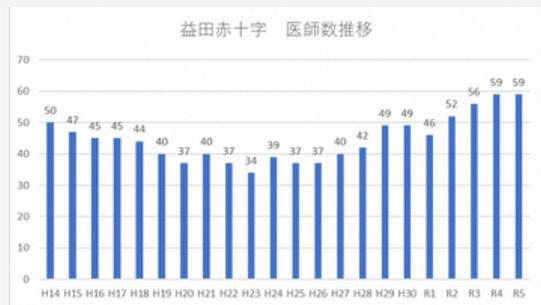
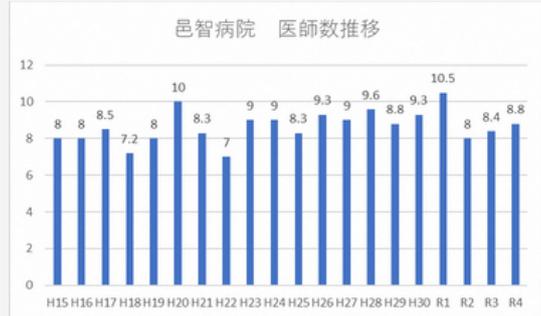
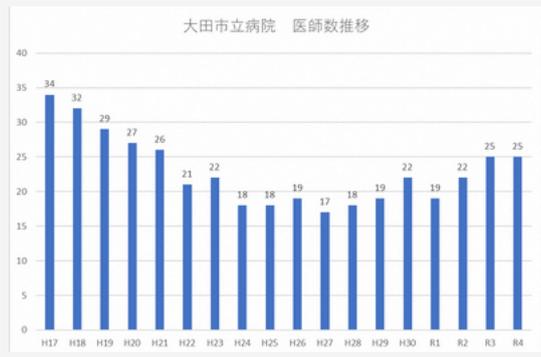
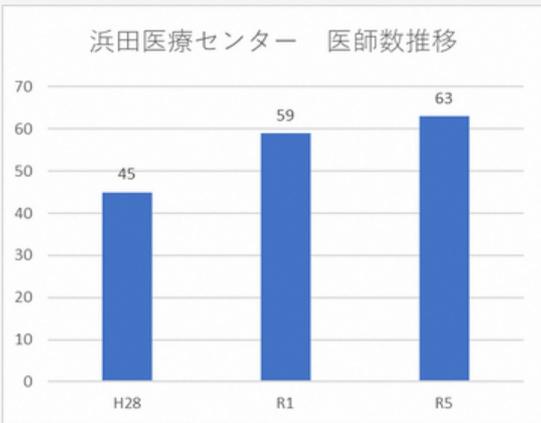
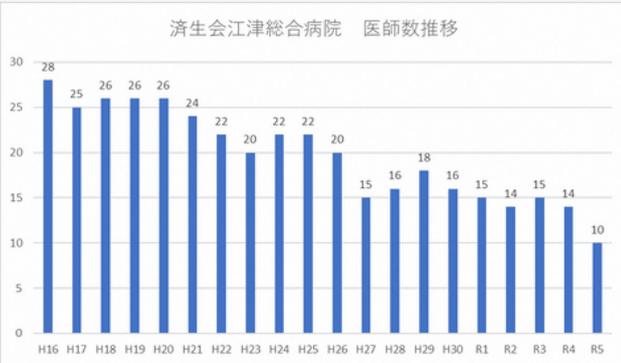
近隣地域では、住民・医療従事者・行政が一体となって地域医療を守る取り組みを推進しています（※意見交換で使用した資料参照）。江津市では現在そのような体制がないため、住民の立場では、地域医療の状況が分からず、地域医療のため何ができるかも知りません。そのため、住民が主体的に活動できる「地域医療を守る会」設立を提案しました。

※意見交換で使用した資料 ダウンロード
<https://www.city.gotsu.lg.jp/site/gikai/35979.html>



02 江津の地域医療の現状

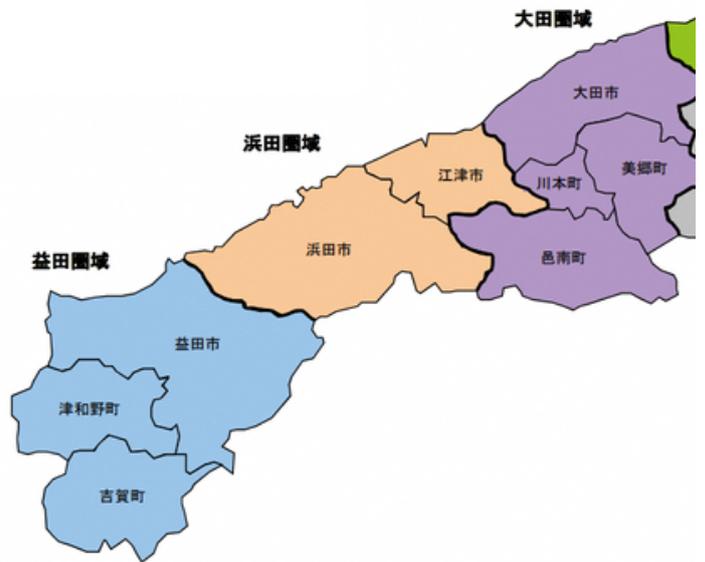
近隣地域と異なる、江津の地域医療の状況（医師数の例）



平成16年の新臨床研修医制度開始以降、江津市の中核病院「済生会江津総合病院」をはじめ**江津の医師は減少し続けてきました。**

※現在は、医師に限らず、看護師・薬剤師などあらゆる医療従事者の確保も課題になっています。

近隣地域の中核病院なども同時期に減少しましたが、**その後、近隣地域の医師は増えています。**



第5節 外来医師多数区域の設定

【外来医師偏在指標】

圏域名	外来医師偏在指標	全国順位 (335 圏域中)	多数区域
松江	115.5	6 2	外来医師多数区域
雲南	90.9	2 1 6	
出雲	124.5	3 9	外来医師多数区域
大田	106.2	1 0 9	外来医師多数区域
浜田	113.0	7 1	外来医師多数区域
益田	97.5	1 6 4	
隠岐	103.1	1 3 1	

江津市が所属する浜田医療圏域は

「外来医師多数区域※」に該当

※厚生労働省の指標で、医師数が多い上位33.3%の地域

※江津市は外来医師多数区域内の外来医師不足地域

※2025年5月意見交換会資料より

03 意見交換の結果概要

総論・全体像

地域医療を守るため、住民・医療関係者・行政の

「交流・対話」の場をつくろう！

そのために

住民がすること

市民の会の設立

医療関係者がすること

情報提供

行政がすること

地域ビジョン策定

議会がすること

みんなへ呼びかけ

地域医療を守るために

住民がすること

「(仮称)江津の地域医療を守る市民の会」の設立

地域医療を守るため、行政や病院だけで取り組んでも、うまくいきません。
住民の理解と取り組みがあって、初めて地域医療を守ることができます。
住民にしかできないことは、住民が主体的に取り組む必要があります。



意見交換を通じて分かったこと

- ・私たち住民は、地域医療の状況をまだよく知らない。
- ・私たち住民は、住民の立場で何ができるかを知らない。
- ・私たち住民は、誰もが地域医療を守りたい

存続してもらいたいと思っている。



住民にしかできないこと

浜田保健所の所長より「その地域で、医療者を”人”として受け入れられるのは、行政でも病院でもなく”住民”にしかできない事です」とご指摘を受けました。

近隣地域の例では、新任の医療従事者の歓迎会を主催・パンフレットの発行・研修会の開催・学校へのふるさと教育・サンキューメッセージなどを行い、人と人との交流の中で地域医療を守っていました。

まずは、近隣地域で実践されている住民の皆さまの取り組みに触れてみませんか。江津において何ができるか、共に考えてみませんか。「これをやってみたい」「これならできるかも」など、私たち住民が主体的にみんなで作って、行動するための器として「(仮称)江津の地域医療を守る会」は機能すると期待しています。

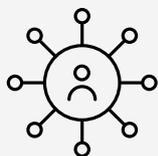
地域医療を守るために 医療関係者がすること

情報提供

情報不足により、住民は不安を感じています。不安から疑念の悪循環が起こっています。

情報は、インターネットで公開も重要ですが、それだけでは伝わりません。

交流と対話を通じた、住民と医療の双方向で適切な情報共有が求められています。



意見交換を通じて分かったこと

病院間の連携、特に救急搬送時の情報共有や二重搬送への不安が強く、済生会江津総合病院・浜田医療センター・島根大学医学部附属病院や救急隊を含めた連携体制がどのようになっているか、いざという時、患者に対し具体的にどんな手順で対応されるのか情報提供が要望されています。



江津地域で、持続可能で必要な医療とは

産婦人科・小児科・外科など主要な診療科の不足に強い懸念があり、地域全体での役割分担を明確にした上での地域ニーズを踏まえた特定の診療科強化や総合診療医の確保を求める声がありました。

病院の診療科や医師の情報、採用情報などを積極的に情報発信することの重要性や、保険証確認の手間・待ち時間・スムーズな会計など受診プロセスの改善についての意見もありました。赤字経営やベッド稼働率の低下といった病院経営の持続可能性も大きな課題であり、地域や行政との連携を深め、解決策を探っていくことが期待されています。

地域医療を守るために

行政がすること

地域ビジョン策定

江津の地域で、持続可能で必要な医療が提供できる体制のビジョンが必要です。

まずは、医療関係者からの情報をまとめて、住民に分かりやすく伝える。

そして住民の声を聞きながら、医療従事者にとっても住みやすいまちづくりが求められています。



意見交換を通じて分かったこと

住民が、地域医療を知ること。医療従事者が、住民の声を知ること。その架け橋となる役割が行政に求められています。それぞれの立場の思いに耳を傾けながら、広域的な視点・包括的な視点で、みんなが取り組むべき課題の設定と、今後めざしていくべき姿の提示が求められています。



広域連携・交通アクセス・医療DXと、まちづくり

地域医療を守るために、国や県の動向も踏まえつつ、財政支援や、働きやすい環境整備(住環境改善・教育環境改善・オンライン診療環境整備・研修支援)、定着支援を求める声がありました。高齢者を中心とした医療機関への交通手段確保も喫緊の課題であり、スクールバス活用や買い物支援との連携など、多様な解決策が求められています。

江津市だけでなく浜田・大田・邑智を含む広域での医療連携強化・75歳以上脳ドック助成復活・集団検診の充実・疾病学習会の実施など予防医療・健康増進への注力も求められています。

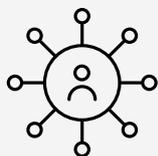
さらに、医療に関する制度や地域偏在の原因分析など、情報公開の促進と、医療DX推進を含む包括的な課題解決が期待されています。

地域医療を守るために

議会がすること

みんなへ呼びかけ

地域医療を守るために、医療関係者がすべきことは医療関係者へ呼びかけ、
行政がすべきことは行政へ呼びかけます。
そして住民にしかできないことは、住民の皆さまへ呼びかけていきます。



意見交換を通じて分かったこと

地域医療への関心を高め、行政と医療と住民が協働する仕組みが重要との認識を確認しました。過去の経緯も把握し、危機感を共有すること、イメージを共有することが、今後の議会の役割りとして求められています。



スピード感をもって呼びかけていくこと

議会は、平成21年に地域医療対策特別委員会を設置して15年間取り組んできました。しかし、これまでの地域医療の現場が抱える課題に対し議会として十分な対応ができていなかったと総括しております。

その反省の上で、議会としてスピード感をもって行動することを議員全員で確認し、このたびの呼びかけを行っています。今後は、住民・医療関係者・行政それぞれの立場での活動が、市全体として情報共有できるよう取り組みます。対話と交流を意識しながら地域医療を守る機運を高め、市全体で地域医療を守る体制が構築されるよう引き続き呼びかけていきます。

皆さまから寄せられたご意見 懸念点への考え方

1.「これまでも色々あったけど、結局何も変わってないのではないか？」というご意見について

■市議会の認識と反省：江津市議会地域医療対策特別委員会は、平成21年に設置され以来約15年間活動してまいりました。しかしながら、これまで地域医療の現場が抱える課題に対し、議会として十分な対応ができていなかったと総括しております。皆さまのそのようなご意見は、これまでの活動の成果が十分な形になっていないことの表れであり、真摯に受け止めております。

■今後の取り組み：この反省の上に立ち、今後は「スピード感」を重視し、具体的な行動を起こしていくことを議員全員で確認いたしました。今回の「(仮称)地域医療を守る市民の会」の設立提案もその第一歩であり、住民・医療関係者・行政が「協働の場」を築き、課題解決に向けて共に取り組む体制を、議会として全力で呼びかけてまいります。

2.「住民に責任を押し付けたいだけではないのか？」というご意見について

■市議会の考え：決して住民の皆さまに責任を押し付けるものではありません。地域医療は、行政や病院だけで解決できる課題ではなく、住民の皆さまのご理解と取り組みが不可欠であるという認識しております。浜田保健所の所長も指摘するように、医療従事者を「人」として地域に受け入れることで定着を支援できるのは、行政でも病院でもなく「住民にしかできないこと」だからです。

■住民の皆さまへの期待：私たちは、住民の皆さまに具体的な行動を強制するものではなく、地域医療への関心を高め「自分にもできること」を見つけていただく機会を提供したいと考えています。具体的な活動は「地域医療を守る会」の中で、皆さまが主体的に「これをやってみたい」「これならできるかも」と感じることから、共に考え、行動していきたいと願っています。

3.「医師不足など、具体的な解決策がないのではないか？」というご意見について

■市議会の課題認識：産婦人科・小児科・外科など主要な診療科の不足や、総合診療医の確保は、江津地域にとって喫緊かつ深刻な課題であると認識しております。これは単一の機関では解決できない複合的な問題です。

■今後の方向性：行政に対し「江津の地域で、持続可能で必要な医療が提供できる体制のビジョン策定」を求めています。このビジョンの中では、地域全体での役割分担を明確にし、地域ニーズを踏まえた特定の診療科強化・広域連携・医療DXの推進など、多角的な解決策を盛り込むよう促していきます。また、働きやすい環境整備(住環境改善・教育環境改善・研修支援など)を通じて、医療従事者が江津に定着しやすいまちづくりも行政と連携して進めます。

4.「情報公開が不十分ではないか？」というご意見について

■市議会の課題認識：情報不足が住民の皆さまの不安や疑念につながっているというご指摘は、まさにその通りであると認識しております。特に病院間の連携や救急搬送時の具体的な対応など、住民の皆さまが本当に知りたい情報が不足していることを痛感しています。

■今後の取り組み：今後は、医療関係者からの情報を住民の皆さまに「分かりやすくまとめ、伝える」役割を行政に求めていきます。インターネットでの公開だけでなく、対話や交流を通じた双方向での情報共有を重視し、住民の皆さまがいつでも安心して医療に関する情報を得られるような体制を築くよう関係機関に働きかけてまいります。

05 おわりに

地域医療が無くなってしまうと、困るのは私たち住民です。

医療の無い地域に、私たちは住めません。

地域医療を守るためには、行政だけで考えても、病院だけで考えても、課題解決はできません。

住民の皆さまの力が必要です。

「住民・病院・行政」みんなが一緒になって考えて、行動する。

その実現のために、江津市議会は医療関係者や行政、

また住民の皆さまへ全力で呼びかけてまいります。

江津の強みは「顔が見える距離感」です。

どうか一緒に、地域医療を支える新しい輪を創りましょう。

大切な人のいのちを守ることに、私たち一人ひとりがその当事者です。

市民の皆さまの温かなご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

意見交換会実施概要

期 間:令和7年5月11日～31日

場 所:江津市内全コミュニティ交流センター(20カ所)

参加者:のべ194人

備 考:市民と議会の語る会(議会報告会)を通じて実施

お問い合わせ・ご意見 江津市議会事務局

Tel:0855-52-7498 Fax:0855-52-3176